

無上意の世界②

250124

(株) タニサケ会長 松岡 浩 さん 講演より

四国八十八か所の巡礼を終え、一人で高知空港の日本料理店「司」に入った年配の客は、ビール1本と土佐名物のかますの姿寿司1人前を注文したと同時に「申し訳ないがグラスは2つで」と頼んだ。注文を受けた若いウエイトレスは、どうしてグラスが2つ必要なのだろうかと思議に思ったが、それでも「かしこまりました」とお客の指示に従い、ビールとグラス2つを出した。すると、客は、小さな額縁に入った女性の写真を自分の目の前に置き、写真の前のグラスにビールを注いだ。そして、自分のグラスにもビール注ぎ、静かに乾杯をした。たぶん、亡くなった奥様の写真をもって巡礼をしてきたのだろうと察したウエイトレスは、寿司ができあがって運ぶ時に、お箸と箸置きを2組、小皿を2枚、さりげなくテーブルに置いた。

その後、故郷へ帰ったお客からの店への手紙には次のように書かれていたという。「四国巡礼の旅には、家内の写真と一緒に出かけ、どこでも、食事のたびに一緒にビールを飲みました。しかし、お箸と小皿を2人分出していただいたのはお宅の店の若いウエイトレスさんだけでした。こんなことは初めてでした。しかも、巡礼の最後に入ったお店で…。本当に驚き、感動で体が震えました。帰りの飛行機の中では、どうしても涙が止まりませんでした。本当にありがとうございました。どうぞ、あの若いウエイトレスさんによろしくお伝えください」…と。

無上意とは、人からにじみ出る 本当の優しさや温かみという人間味

人は大それた行為や金のかかった大きな仕掛けに感動し、感激するのではない

誰もが少し努力すればできる笑顔や思いやりや気遣いを

「ここまでやるか」と見せられたとき 感動し、感激する